社会福祉士養成教育における ICT 活用の取り組み
－模擬面接を対象とした ICT 教材の開発と教育実践－

An action of the ICT utilization in the social worker training education
- Development and the educational practice of ICT teaching materials for sham interviews -

坂本 毅啓[*1], 佐藤 貴之[*1]
Takeharu SAKAMOTO[*1], Takayuki SATO[*1]
[*1] 北九州市立大学
[*1]The University of Kitakyushu
E-mail: s-takeharu@kitakyu-u.ac.jp

あらまし：福祉専門職養成教育において，ICT を活用した教育実践とその研究については，医療や看護領域とは異なり皆無であった．そのような中，これまで佐藤・坂本で取り組んできた福祉専門職養成教育，特に社会福祉士養成教育における ICT の活用に向けた検討を踏まえ，本報告では実際に開発した ICT 教材の教育実践例について報告し，今後の改善点について考察を行う．
キーワード：福祉，社会福祉士養成教育，コミュニケーションスキル，ICT 活用

1. はじめに

少子高齢化が進展する現代社会にあって，国民の福祉ニーズはますます多様化, 高度化してきている．地域包括ケアシステムを中心とした介護の在り方など，支援の中心的担い手である社会福祉士には高度な知識とスキルが求められる．福祉人材の確保において，厚生労働省は ICT を活用した教育の推進を指摘している．

しかし，そのような現状であるにも関わらず，福祉専門職教育において ICT を活用した教材の開発というのは皆無に等しい現状であった. 佐藤と坂本は，これまで介護福祉士養成教育，社会福祉士養成教育の２点について ICT 活用の可能性を検討してきた. (1) そして社会福祉士養成教育における，クライエント（利用者）と直接的にコミュニケーションをとる技法，特にマイクロカウンセリングに焦点化し，ICT を活用した教材の開発に取り組んできた. (2)

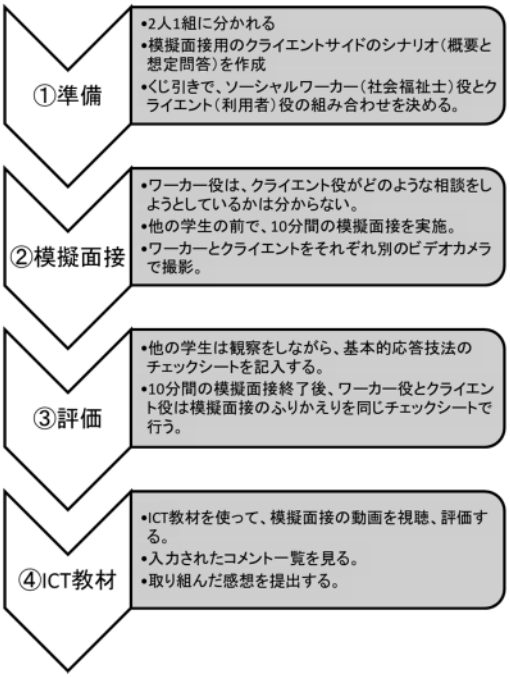

図 1 学習の全体の流れ

本報告では，実際に開発した ICT 教材の紹介と，その教育実践について報告を行う．

2. 教材全体の概要

今回開発，実践した教材は，社会福祉士養成課程のカリキュラムの中の科目「相談援助演習」の教材である．150 時間の学習を，多くの大学では 2 年生から 4 年生にかけて行う．本教材は，その中でも最初の方で学習する内容である，援助のための面接技術の基礎を学び，マイクロカウンセリングに焦点化して実践的なコミュニケーション能力を獲得することを目指すものである．

教材を活用した学習全体の全体の流れは，図 1 の通りである．使用した基本的応答技法に関するチェックシートは，相談援助演習でよく使われている教材を活用した. (3) ①から③までの学習の流れと実践については，相談援助演習の授業教材としては一般的によく使われている内容である．

我々が開発に取り組んでいる教材は，撮影した模擬面接場面を，ICT を活用してさらに学ぶことのできる教材にすることであった．方法としては大学内の LMS（Learning Management System）として導入されている Moodle を活用し，教材のソフトウェアを開発し，録画データを学生がパソコンやスマートフォンで閲覧し，各技法活用のチェックやコメントを入力することができるようにした．

3. ICT 教材の実践結果と考察

今回の学習では，12 名の学生が参加し，すべての学生がワーカー役とクライエント役を担当した．

図 2 はパソコン用の学習画面，図 3 はスマートフォン用の学習場面である．いずれも，ワーカーの表

図 2 パソコン版の学習画面

図 3 スマートフォン版の学習画面

情が見える動画データを視聴しながら，基本的応答技法の各技法が活用できているかチェックし，総合コメントを書き込めるようになっている．今回の実践では，パソコン版とスマートフォン版の二つを用意したが，12 名全ての学生がスマートフォン版の学習画面を選択し，自ら所有しているスマートフォンを使用して取り組んだ．

コメントの書き込みは授業時間内という制約から，①自分がワーカー役をした面接，②自分がクライエント役をした面接，③シナリオ作成時のパートナーがワーカー役をした面接，④同じくパートナーがクライエント役をした面接，の順番で取り組んでもらった．

その際，1 台の Android スマートフォンにおいて動画再生に不具合が生じた．また別の softbank 回線の iPhone5c においてコメントが送信できなくなり，そのままシステムにログインできなくなるという不具合が生じた．それ以外については，特に問題が生じることもなく，すべての学生がこの ICT 教材に取り組むことができた．

使用後に学生に感想を提出してもらったところ，「評価するためには録画の方がよい」や「録画したのを見る方が客観的に見て評価出来た」，あるいは「自分の姿を見るのは新鮮だった」，「映像で見ると自分を客観的に見ることができた」などのように全体的に好意的な意見が多く，特に自己の振り返りという点において大きな気づきがあったと考えられる．教材開発中は，コメントを多くもらうことでスキルトレーニングになると思われたが，それ以上に動画データを視聴し，自己を客観的に振り返ることが出来た点が学生にとって大きかったようである．

図 3 パソコン版のコメント一覧画面

4. 今後の課題

今後の課題として，パソコン版を実践出てきていない点をまずは挙げることができる．

さらに，今回の実践において発生したスマートフォン版の不具合の修正も必要である．また「速度制限にかかったら大変なので容量が小さいと嬉しい」という学生の意見は，学生のスマートフォンをそのまま活用してもらう際には配慮した方が良いと思われた．

学生の感想として，「自己を客観的にふりかえることができた」点を評価する声が多く見られたが，しかしこの点については，ICT を活用する前からビデオ録画を学生に視聴させている教員が少なくなく，ICT 活用ならではの成果とは言い難い．そういう意味では，Moodle というシステムを十分に活用できていないといえる．この点ついては，今後の重要検討課題である．

謝辞

本研究は JSPS 科研費 26330403 の助成を受けたものです．

参考文献

(1) 佐藤貴之，坂本毅啓:“福祉専門職教育における情報技術を用いたシステム導入の検討”，教育システム情報学会研究報告, Vol.28, No.1, pp.74-79 （2013）
(2) 佐藤貴之，坂本毅啓:“社会福祉士における模擬面接をより効果的に行うための教材の設計”，教育システム情報学会研究報告, Vol.28, No.5, pp.107-113 （2014）
(3) 山辺朗子:“ワークブック社会福祉援助技術演習②個人とのソーシャルワーク”，ミネルヴァ書房，京都（2003）